

5-7

個々に応じた排泄面からの見直し

その人らしく快適な生活を送って頂くために

排泄ケアの個別化

スキントラブル

とくべつようごろうじん ひがしくるめ
特別養護老人ホーム マザアス東久留米

介護士 ^{ひよっかい えみ} 百海 恵美

二ツ森 正秀・荻野 洋・村上 ひと美

東京都東久留米市氷川台2-5-7

田中 敦朗・高橋 潤人

TEL : 042-477-7261

E-mail : higashikurume@moth.or.jp

FAX : 042-477-7500

URL : http://www.moth.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要

ぐるぐる巻きに厚く当てたおむつは利用者にとって不快ではないか。自然に自分らしく生活を過ごして頂くには、日々の生活の中で最も大きな影響を与える排泄ケアの改善が求められ、問題点を把握しそれに対する取り組みを報告。

〈取り組んだ課題〉

スキントラブルが繰り返し見られる利用者や尿量が多い利用者にはパッドの重ね当て、布おむつの着用・回数を増やすなどして対応してきたが以下のような問題点があげられます。

- ① 離床時間の低下と夜間の安眠の妨げ。
- ② 排泄時間の増加、それによる個別対応の減少。
- ③ パッドの重ね当て、布おむつによる通気性の悪さ。
- ④ 「漏れるから、寝たきりだから」と布おむつを容易に用いてしまう排泄ケアに対する先入観。

以上の問題点を踏まえて、今回の研究では次のような目的で排泄業務の改善に取り組みました。

- ① 個々の排泄パターン・排泄機能の把握。
- ② 利用者の訴えを聞き、排泄ケアの方法を見直す。
- ③ 利用者とのゆとりの時間を増やす。

〈具体的な取り組み〉

- ・スキントラブルの発生が多く、交換回数が多い4名
 - ・おむつ着用による不快感の訴えが聞かれる2名
- 以上の6名の利用者を対象とし、排泄介助に関わる職員全員の協力を得て以下の手順で実施しました。

期間：平成18年10月25日～12月10日

①研究対象者の検討・事前にアセスメントを記入し改善すべきところを把握する。

②勉強会・他のメーカーの製品にも目を向け、個々に応じた排泄ケアについて事前に勉強会を開く。

③研究対象者の決定・勉強会を通し、スキントラブルはないが意思疎通が可能な利用者にも一緒に挑戦して頂き、おむつとの快適性の違いを直接聞いてみようと考え、対象者を再度検討する。

④2週間のテスト・3日間尿量の測定を行い、個別にどの時間にどれだけの尿と便が出ているか正確に把握し、測定後は個別の時間帯に適したパッドの使用と回数の調整をしながら皮膚の状態とご本人の訴えを観察していく。

〈活動の成果と評価〉

スキントラブルの予防が目的とされた4名は交換回数は減少したが皮膚改善は2週間のテストでは効果は得られませんでした。それに対し不快感の訴えがあった2名はおむつからパンツに移行できご本人から喜びの声が聞かれる結果となり、おむつとは違う外見、中身の快適性に満足して頂けました。その内の1人であるE氏(仮名)はテストを進めていくにつれ、失禁回数が減り、トイレで排尿されることが多く見られたりする等、排泄パターンを把握する面でも良い結果が得られたと思われます。

排泄ケアの個別化を進める手段として、今回は他のメーカーの製品をテスト形式で試行したが、どの利用者にも適しているわけではなく、良い面を引き出すには、期間が短く、対象者も少なかったと思われます。ただ、テスト期間中の利用者の個々の声や活動性の向上・精神的な変化を目の当たりし、職員自身が個別対応の重要性の認識を深めることができたと考えます。

〈今後の課題〉

排泄パターンを把握し、適切な予防をしていくことが、回数の減少とゆとりのある時間をはじめて生み出せるものと多くの職員が理解できたと思います。今後は他のメーカーにも視野を広げ、排泄ケアをあらゆる面から考えるとともに[生活の質の向上]に繋げること、[排泄に捉われない意識]を持つことで今後の排泄ケアの個別化をより深めていくよう努めていきます。